

伊丹 敬之



国際大学学長

加瀬公夫前学長の退任に伴い、9月1日付で学長に就任した。

新学長は1945年愛知県生まれ。1967年一橋大学商学部卒業、1969年同大学院商学研究科修士課程修了、1972年カーネギー・メロン大学経営大学院博士課程修了。その後、スタンフォード大学経営大学院客員准教授、一橋大学商学部教授、同学部長、商学研究科教授、東京理科大学イノベーション研究科教授、同研究科長などを歴任。2000

8年一橋大学名誉教授、2010年プロツワフ経済大学（ポーランド）より名誉博士号取得。2005年には宮中紫綬褒章受章、2009年には宮中講書始の儀御進講者を務めた。

現在、外部役職としてJFEホールディングス株式会社、商船三井株式会社社の社外監査役を務める。

専門は経営学。主な著書は『経済を見る眼』（東洋経済新報社、2017年）、「難題が飛び込む男 土光敏夫」（日本経済新聞出版社、2017年）など多数。

新学長は、アジア・アフリカの将来の発展に日本が貢献することを歴史的役割と捉え、その濃密なネットワークが、日本初の大学院大学「国際大学」に存在する意義を強調する。多くの若者から、日本とアジア・アフリカを生の人間関係の中で感じたい、グローバルリーダーになるための勉強を国際大学でしたいと思われるよう期待している。

中川 正法



筑紫女学園大学学長

上山大峻前学長の退任に伴い、6月20日付で中川正法教授が学長に就任した。

中川新学長は1955年福岡県生まれ。1989年九州大学大学院文学研究科博士課程インド哲学・仏教史専攻単位取得満期退学。1982年から、文部省（当時）「アジア諸国等派遣留学生」制度によりインド・プーナ大学に2年間留学。1989年筑紫女学園短期大学講師就任、助教授を経て、2003年から筑紫女

学園大学教授。同学生部長、文学部長、人間科学部長、副学長、学長代行を歴任。専門はインド仏教学。チベット仏教における戒律の根本聖典である『律経』に関する多数の論文がある。また、筑紫女学園大学の地域貢献プロジェクト「北部九州真宗文化財調査研究」の代表を務め、真宗寺院が所蔵する宝法物や古文書の発掘・保存活動に携わり、その成果の一端を『九州真宗の源流と水脈』（共著、法蔵館）として上梓している。

筑紫女学園は、水月哲英が1907年に浄土真宗の教えを建学の精神として設立した筑紫高等女学校を母体とし、2017年5月に創立110周年を迎えた。1988年に開学した筑紫女学園大学は、「学生一人ひとりの成長と自己実現のために」を目標に掲げ、どの分野においても自らの役割を果たし、新しい価値を創造し得る自律的女性の育成を使命として着実な歩みを進めている。

山田清志 東海大学学長、学校法人東海大学

常務理事。東北大学大学院情報科学研究科人間社会情報科学専攻単位取得満期退学。東海大学副学長などを歴任し、'14から現職。

堺一 東京経済大学学長。'76名古屋大学

大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学博士（名古屋大学）。'14から現職。主著に『近代イタリヤ農業の史的展開』など。

竹内理 関西大学外国語学部教授（理事・

学部長）。モントレイ国際大学院（フルブライト）修了。博士（学校教育学）。'10から現職。主著に『より良い外国語学習法を求めて』など。

磯貝健 公立大学法人国際教養大学事務局

長兼国際教養学部准教授。'94米国コーネル大学経営大学院修了。MBA。'04国際教養大学設立時から勤務、'15から現職。

池田伸子 立教大学異文化コミュニケーション

学部教授。'97国際基督教大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。'02立教大学に着任、'08から現職。

高野恵美子 昭和女子大学国際学部教授。'91

ノッティンガム大学大学院言語学修士課程修了。'12から現職、'17から国際学部長。主著『英語学習者コーパス活用ハンドブック』など。

奥村信幸 武蔵大学社会学部教授。'89上智大

学大学院博士前期課程修了。修士（国際関係学）。テレビ朝日記者を経て、'05から立命館大学産業社会学部准教授、'12に教授。'14から現職。

望月正隆 東京理科大学薬学部教授。'71東京

大学大学院薬学研究科博士課程修了。薬学博士。'84共立薬科大学教授、'99同学長。'08から現職。主著『有機化学の基礎』など。

田中稔之 兵庫医療大学薬学部教授。'89東北

大学大学院修了。薬学博士。大阪大学大学院医学系研究科助教授を経て、'07現職。'17薬学部長。近著『初めの一歩は絵で学ぶ 免疫学』

服部尚樹 立命館大学薬学部長、教授。'90京都

大学医学部内科系大学院卒業。博士（医学）。北野病院、神戸中央市民病院、関西医科大学を経て'09から現職。専門分野は「内分泌学」。

政田幹夫 大阪薬科大学学長、福井大学医学

部名誉教授。'79京都大学大学院薬学研究科博士課程修了。博士（薬学）。'91福井大学医学部教授・薬剤部長を経て、'15から現職。

鍋沼利幸 東京理科大学薬学部長、教授。'88

富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了。薬学博士。日本薬学会環境・衛生部会長、日本毒性学会理事などを歴任。

宮崎智 東京理科大学薬学部教授。'88東京

理科大学大学院理工学研究科修士課程修了。'97博士（理学）取得。理化学研究所、国立遺伝学研究所を経て、'06から現職。

富沢弘和 学校法人河合塾教育コンテンツ本

部教育情報部部長。'94河合塾に入塾。'16から現職。

市瀬英昭 南山学園理事長。

柳井 望 同志社大学キャリアセンター所長。'83同志社大学文学部文化学科教育学専攻（現社会学部教育文化学科）卒。同年同志社大学職員、'16から現職。

森 伸也 法政大学キャリアセンター市ヶ谷事務課就職支援担当主任。法政大学社会学部卒。'06法政大学入職。'16から現職。

金 賛會 立命館アジア太平洋大学副学長。'95立命館大学文学研究科博士課程修了。博士（文学）。'09学生部長、'17から現職。主著『お伽草子・本地物語と韓国説話』など。

福田謙一 株式会社マイナビ就職情報事業本部グローバル採用企画統括部主任。武蔵大学卒。'08株式会社マイナビ入社、求人情報媒体の営業職を経て、'16から現職。

山尾 涼 広島修道大学人文学部助教。'10名古屋大学大学院文学研究科ドイツ文学専攻博士後期課程単位取得満期退学。博士（文学）。'16から現職。主著『カフカの動物物語』ほか。

浅野美知恵 東邦大学健康科学部部長。'05千葉大学大学院修了。博士（看護学）。順天堂大学などを経て、'14東邦大学準備室、'17から現職。主著『絵でみるターミナルケア』など。

長澤修一 梅花女子大学学長。関西学院大学大学院ドイツ文学研究科博士課程単位取得退学。梅花女子大学教授を経て、'08から現職。

保科正夫 駒澤大学医療健康科学部教授。'04東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了。博士（腫瘍放射線医学）。群馬県立県民健康科学大学教授を経て、'15から現職。

大矢野栄次 久留米大学経済学部教授。'82東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。博士（経済学、久留米大学）。佐賀大学経済学部を経て、'94から現職。

布広永示 東京情報大学総合情報学部教授。'85日本大学大学院生産工学研究科博士後期課程（数理工学）単位取得満期退学。工学博士。主著『システム設計論』など。

和田由里 株式会社花満相談役・企画広報室長。'85広島女学院大学を卒業後、株式会社花満に入社。'05株式会社花満代表取締役社長に就任。'08・'12・'16・'17一般社団法人日本花き卸売市場協会副会長。'14一般社団法人花の国日本協議会理事。'17から現職。

脇浜紀子 京都産業大学現代社会学部教授。神戸大学法学部卒。'90読売テレビ入社。'10大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了。博士（国際公共政策）。

〈お断り〉 本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き
2017年
9月・10月

- 9月7日(木) 主要国会議員に、地方創生予算・施策について要望
- 9月12日(火) 第5回常務理事会、第5回理事会に出席
- 9月15日(金) 経済再生担当大臣を表敬訪問
- 9月20日(水) 「私立大学の振興に関する協議会」に出席。主要国会議員に、地方創生予算・施策について要望
- 9月21日(木)、26日(火) 主要国会議員に、地方創生予算・施策について要望
- 9月27日(水) 文部科学大臣に、地方創生予算・施策などについて要望
- 主要国会議員に、教育無償化に関する施策について要望
- 10月11日(水) 日本私立大学団体連合会 役員会に出席
- 10月17日(火) 第6回常務理事会、第6回理事会に出席
- 10月19日(木) 納谷前副会長叙勲祝賀会に出席

平成29年秋の叙勲・褒章
(連盟事業関係者)

〈叙勲〉

旭日中綬章

神代 正道 (久留米大学名誉教授、元理事長)

瑞宝重光章

高野 二郎 (学校法人東海大学副総長、理事、東海大学理学部教授、元学長)

開催報告

● 9月4日(月)

「理事長会議」開催

「中長期計画運用サイクル」の策定・実践とガバナンス・マネジメント体制」をテーマに、品川プリンスホテル(東京都港区)にて開催。62法人81名の参加があった。

● 9月14日(木)

「国の補助金等に関する説明会(第1回)」開催

「平成30年度文部科学省概算要求」、「国公私立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進 概算要求」ならびに「大学における基礎研究の推進に関する予算」について

て、文部科学省担当者から報告・説明があった。また、地方創生に関わる国の制度・予算の動向について、内閣官房担当者から報告・説明があった。90大学、300名の参加があった。

説明会後、設置された個別質問ブースでは、各大学からの質問に文部科学省担当者が対応し、より詳細な説明を受けた。



私大連盟「国の補助金等に関する説明会」

私大連盟公式Facebookページ

公式Facebookページ (<http://www.facebook.com/shidaren>) を開設しています。

座談会 「周年事業について考える～転換と変革の契機に～」

特集 「生涯学習・社会人の学び直し」

小特集 「大学の緑地管理」

表紙・大学点描 大東文化大学 だいがくのたから 名古屋学院大学

クローズアップ・インタビュー：「岸 孝之さん（プロ野球選手）」

編集後記

◆幼少時、薬は医院でもらうものだった。日本薬剤師会によると、日本における医薬分業は明治時代に遡り、以後さまざまな経緯を経て、2003年に全国の医薬分業率が初めて50%を超え、2012年には66%に達したとのこと。いまでは薬は薬局で調剤してもらうのが当たり前になり、薬剤師は私たちの健康に深く関わる身近な存在となった。医薬分業の進展に併せて薬剤師の専門性の向上が求められ、2006年に導入された6年制課程修了者に国家試験の受験資格が与えられることとなった。

今号ではこのような状況における薬学教育の現況や受験動向などについて特集した。優秀な薬剤師の育成や高度な創業研究は私たちの健康や暮らしに直結し、医療や看護との密な連携が求められている。大学によって取り組みや特色は多様だが、いずれも、根底にあるのは命や健康に対する責任の重さである。薬学教育を取り巻く環境が変わりつつある中、今後の展望と課題について考える契機

となれば幸甚である。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・早稲田大学商学術院事務長 鈴木勉）

◆日本政府のグローバル化政策を受け、日本人学生の海外留学および海外からの留学生受け入れが推進される中、各大学の就職支援担当部局も、海外留学を目指す学生や外国人学生の就職支援などグローバルな対応が求められている。

本号では、外国人留学生を多く受け入れている大学の就職支援および日本企業の採用の実情を紹介していただいたが、日本人学生の就職状況が、この数年高い比率で安定している一方、外国人留学生の文化や生活習慣が、日本国内での就職にここまで高いハードルとなっていることに改めて驚いた。

個々の現場ではそれぞれに努力しているものの、将来を考えた時、大学も企業も、従来通りの考え方や習慣を守り続けるだけではなく、異なる価値観や新しい考え方を受け入れる「体質改善」が急務ではなかるうか。

（広報・情報部門会議（大学時報）委員・立教大学広報課

長 長野 香

◆クローズアップ・インタビューでは、昨年まで株式会社花満の代表取締役社長で、現在は相談役兼企画広報室長の和田由里さんにお話を伺った。

花満は、広島で唯一の花卉卸売業者として、広く花卉の卸売を手掛けている。

和田さんは、広島学院大学に入学なさった頃は花満に就職する予定ではなかったが、社長だったお父様が50代前半でお亡くなりになるなどとして、40代にして代表取締役社長に就任した。社長に就任するまでは事務職として働いており、営業部門の経験はなかった。

そうした中で、セリへの運営から花卉市場の協会への出席など慣れない業務に精力的に取り組んだ。そして、現在では「花と緑のコンシエルジュ」というウェブサイトを通して、花の生産者と花屋さんをつなぐ役割も果たしている。

時には自分の意に反する思いもかけないことが、新しい自分の能力や可能性の発見につながるのかもしれない。私もそうした機会を逃さないよう、新しいことに積極的挑戦していきたい。日本私立大学連盟事務局 佐藤 義文

[illegible]

©無断転載はご遠慮下さい。落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

